

災害復興においてソーシャル・キャピタルがコミュニティの再形成に及ぼす影響
 —宮城県南三陸町の契約講を事例に—

国際協力学専攻 47-186801 平岡 侑一郎

指導教員：中山 幹康 教授

キーワード：ソーシャル・キャピタル、災害、コミュニティ形成、南三陸町、契約講

1. 背景

災害に関するソーシャル・キャピタルの研究は多く、災害復興の過程において、互助機能の強弱や復興計画の策定に影響を及ぼすなど、ソーシャル・キャピタルは重要な役割を果たすことが分かっている[1,2]。

一方で、ハード面の復興が完了し、住民が仮設住宅から移住した後の、コミュニティの再形成などのソフト面の復興にソーシャル・キャピタルがどのような影響を及ぼしているかに着目した研究は少ない。仮設住宅から移住した先で形成されるコミュニティは、次に災害が発生した際に有効となるソーシャル・キャピタルの端緒となるものである。そのため、この段階におけるコミュニティの再形成にソーシャル・キャピタルが及ぼす影響の分析及び評価が必要である。

2. 目的

本研究では、災害復興過程、特に住民が仮設住宅から移住した後の段階で、ソーシャル・キャピタルがコミュニティの再形成などのソフト面の復興にどのような影響を与えたのか、を明らかにすることを目的とする。

3. 対象

調査対象地として、宮城県南三陸町を設定した。南三陸町は宮城県の北東部に位置する町であり、大きく志津川、戸倉、歌津、入谷の4地区に分けられる(図1)。

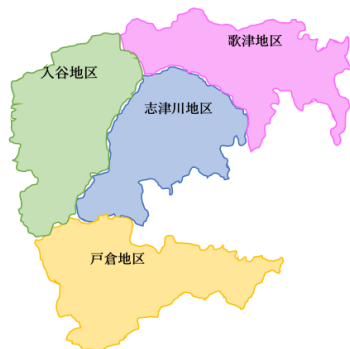


図1：南三陸町の4地区

2011年3月11日の東日本大震災において、南三陸町も大きな被害を受けた。被災後8年が経った2019年現在、南三陸町におけるハード面での復興事業はほぼ完了し、人々の多くが仮設住宅から転居し、暮らしの再建を始めている。仮設住宅からの主な転居の形として、防災集団移転事業による自立再建と、賃貸住宅にあたる災害公営住宅への移住の2通りが存在する。コミュニティがそのまま移転する防災集団移転に対して、災害公営住宅は1からのコミュニティの再形成が必要となる。以上より、住民が仮設住宅から移住した段階におけるコミュニティの再形成を対象とする本研究の調査対象として適していると考えた。

南三陸町には、「契約講(契約会)」と呼ばれる伝統的及び地縁的ソーシャル・キャピタルが存在する。契約講の伝統的な機能として、冠婚葬祭の行事を開催する際の協力や非常時の互助、行政機関との連携機能が挙げられる。この契約講を、本研究が注目するソーシャル・キャピタルとして設定した。

既往研究より、契約講は、東日本大震災における非常事態の現場において、避難所や仮設住宅における自治や、高台移転計画への寄与など一定の役割を果たしていたことが分かっている[3,4]。しかし、居住形態が仮設住宅から移行した後のコミュニティの形成に及ぼす影響について述べられた研究は未だ少ない。

4. 手法

本研究の目的を、南三陸町における地縁的及び伝統的なソーシャル・キャピタルである契約講が、災害公営住宅におけるコミュニティ再形成に対して与えている影響を明らかにすること、と再定義した。仮説として、既存のコミュニティである契約講を中心にコミュニティの再形成がなされている、という説、及び既存のコミュニティを優先するあまり、新しいコミュニティの形成が阻害されている、という説を設定した。

調査手法として、詳細な状況の把握を目的に、インタビュー調査を選択した。南三陸町の災害公営住宅関係者8名及び住民10名、加えて行政関係者として役場職員2名を対象にインタビューを実施した(図2)。インタビュー調査の目的は、仮設住宅から移住した後の住民のコミュニティ形成の状況の確認、各地区における契約講の存在と状況の確認、及び契約講がコミュニティの再形成に及ぼしている影響についての仮説の検証である。

名前	場所	日時
A氏	災害公営志津川中央住宅 集会所	2019年11月6日(水) 10:00~12:00
B氏	災害公営伊里前住宅 集会所	2019年12月24日(火) 9:00~12:30
C氏		
住民10名		
D氏	災害公営戸倉住宅 集会所	2019年12月24日(火) 14:00~16:00
E氏		
F氏	電話によるインタビュー	2019年12月16日(月) 16:40~17:00
G氏	ヒアリングペーパーによる調査	-
H氏	南三陸町生涯学習センター	2019年12月26日(木) 9:00~9:15

図2: インタビュー調査の概要

5. 結果

調査結果の概要を図3に示す。

地区	志津川地区	歌津地区	戸倉地区
契約講	震災前 ・弱体化していた ・繋がりは全て津波により流されてしまった ・地区内には残っている地域もある。	震災前 ・存在した。 ・残っている。 ・団地に跨る形で存在している。 ・契約講主催の祭りが復活するなど、勢いを取り戻しつつある。	震災前 ・存在した ・残っている。 ・行事や葬儀が簡略化されている。 ・契約講に関する記録が津波によって失われた。 ・元の地域から移住した人は退会してしまった。 ・隣情は現在も契約講長が行っている。
コミュニティの再形成	・毎朝ラジオ体操が開催されている。 ・お茶っこ団体「笑福会」が存在する。 ・自治会が積極的にイベントを開催している。 ・イベントの参加率の向上に苦慮している。	・朝にラジオ体操が開催されている。 ・ラジオ体操後にお茶っこを開催している。 ・住民が互いに声掛けを行う雰囲気形成されている。 ・移動販売車がコミュニティ形成の場となっている。	・毎朝ラジオ体操が開催されている。 ・ラジオ体操後にお茶っこを開催している。 ・町外からの移住者が積極的に交流を図っている。 ・男性陣はグラウンドゴルフで交流がもたれている。
契約講及び外部コミュニティによる影響	・外の繋がりを頼っている人はいないだろう	・移動手段がなく、団地外の知り合いと会うことは少ない。 ・契約講に類する「伊里前会」が団地を跨ぐ形で存在。 ・伊里前住宅の住民は自治会役員意向で伊里前会に入っていない	・契約講に入っていた人は移転してしばらく後に退会してしまった
その他	【住宅内】 ・共益費回収をコミュニケーションの契機にしたいと考えている。	【団地内】 ・団地内の異なる住居形態間で断絶が生じている。 【住宅内】 ・自治会長の立候補が出ないという課題を抱えている。	【団地内】 ・団地内の異なる住居形態間で断絶が生じている。 【地区全体】 ・契約講及び消防団の連携により、若年層の繋がりが強固になっている。

図3: 調査結果の概要

調査より、震災以降も契約講が残っており、尚且つ災害公営住宅が位置する団地に跨る形で契約講が存在した歌津地区の災害公営伊里前住宅においてのみ、元来存在する「伊里前契約会」が主催で地域の祭りを実施していること、「伊里前会」という契約講に類する団体によってコミュニティ形成が図られていることが分かった。

その他の地区では、志津川地区の災害公営志津川中央住宅では周辺に契約講が残っており、戸倉地区の災害公営戸倉住宅では物理的な距離を理由に、住宅内の住民が契約講を退会してしまったため、コミュニティ形成に及ぶ影響は観察できなかった。

また、負の側面に関する仮説についても、外部コミュニティを優先するあまり内部コミュニティの再形成が阻害される、という形での影響は観察できなかった。

6. 考察

結果より、契約講がコミュニティ形成に与える影響には直接的・間接的な正の影響及び間接的な負の影響が考えられること、災害を機に発生した労働の形態と住まいの変化が、志津川地区で進んでいたソーシャル・キャピタルの衰退を他の地区でも一気に進めたと考えられることが考えられた。

災害公営住宅内の自治会などで、旧来のソーシャル・キャピタルにおける役割がリーダーの台頭を阻害してしまっている可能性があること、震災前のソーシャル・キャピタルよりも、仮設住宅におけるソーシャル・キャピタルの方が、災害公営住宅におけるコミュニティ形成に有効に働いている可能性がある可能性も示唆された。

7. 今後の課題

本研究では、インタビュー対象の意見のみを結果として解釈した。より詳細な情報を得るには、災害公営住宅の住民を対象に全数調査を行うことが必要となる。

対象を災害公営住宅としたが、南三陸町全体のコミュニティ再形成の現状を把握するためには、より様々な移転形態の住民を対象とした調査が求められる。

参考文献

- [1] Aldrich, Daniel P. "Fixing recovery: Social capital in post-crisis resilience." *Journal of Homeland Security* 6 (2010): 1-10.
- [2] Nakagawa, Y., Shaw, R. "Social capital: A missing link to disaster recovery." *International Journal of Mass Emergencies and Disasters* 22.1 (2004): 5-34.
- [3] 今井良広, 金川幸司, 後房雄. "コミュニティ・レジリエンスとソーシャル・キャピタル-南三陸町における震災復興の取り組みから." *経営と情報: 静岡県立大学・経営情報学部/学報* 27.2 (2015): 1-24.
- [4] 今井良広, 金川幸司, 高田篤. "合併旧町のレジリエンス-南三陸町歌津地区を事例に-" *経営と情報* 30.2 (2018): 1-18.